

# 花岡公民館だより

令和4年



発行 花岡公民館 電話 43-7124 FAX 46-2201

## 令和4年度 第57回 花岡地区産業文化祭

「地域づくり・人づくり・つながりづくりを目指して」  
～あなたの笑顔がみんなのちから～

11月5日、6日に開催された花岡地区産業文化祭では、小学生や園児の絵のほか、書や絵画、手工芸品の数々が展示されました。

また、芸能発表会では、花岡保育所園児のかわいいお遊戯に始まり、婦人会やサークル会員、地区住民による踊りや合唱、スコップ三味線のほか、ダンスオデッセイの皆さんによるヒップホップダンスなど、会場は大いに盛り上がりました。

文化祭に参加して下さった皆様をはじめ、準備から後片付けまでご協力くださったかたがた、ご協賛くださった地元企業、団体など多くの皆様に心よりお礼申し上げます。



## 館長雑感

## 三について

鉛色の雲が空を覆い、木枯らしが吹き、遠くの山にはうっすらと雪が積もり、冬本番を思わせる天気になってきました。今年は「3年ぶり」ではないかと思った流行語大賞、残念ながらノミネートすらされませんでした。今年の干支は十二支の三番目の「寅」、締めくくりの月に「三」について考えて見ました。

例えばプロ野球の打率は3割を越えると一流選手としての評価を受けますし、テレビの視聴率は30%を越えれば、たいへんよい番組と評価されます。しかし、会議などでは3割程度の賛成では原案を可決できませんし、内閣の支持率も30%程度ではどうなのでしょう。このように数値が同じであっても全体からの判断は異なる場合があります。

「白髪三千丈」「母を訪ねて三千里」「石の上にも三年」などはすごく長いという意味にとれますが、三枚目、三文判、三日坊主、二束三文などは安っぽいもの、少し劣っているものとして扱われます。また、「仏の顔も三度」や「三度目の正直」などは三度でも多いくらいだという感じに使われています。なぜ「三」なのかよくわかりませんが語感から来るものかもしれません。確かに「四人四様」とか「五人寄れば文殊の知恵」、「七つ子の魂百までも」では意味は同じくとれても何となくすっきりしない感じがします。

さて、22日は「冬至」、昔の中国や日本などでは冬至は太陽の力が一番弱まった日であり、この日を境に再び力が甦ってくると考え、「一陽来復(いちようらいふく)」といい、運も上昇していき、悪いことが続いても、回復してよい方向に向かうとされていたそうです。新型コロナ騒動もこの日を境として収束に向かってほしいものです。

三密を避け、手洗い、うがいを励行し、万難を排して過ごしたいものです。



## 花矢図書館から



### 新着図書

一般書が「キャラ絵で遊ぶ! 徳川家康図鑑」、「ウクライナ戦争日記」、「肝臓こそすべて」、「大人絵日記」、「はくせんぼう」、「夏日狂想」、「いけない」です。

児童書が「死ぬんじゃねーぞ!」、「なりたい! が見つかるお仕事図鑑」、「謎! 最驚! 世界のサメ超図鑑」、「星の町騒動記」、「せんたくかごのないしよのはなし」、「アンパンマンとらんぼうや」、「バリバリしゅうしゅうしゃ」です。

開館時間 火~金 9~19時 土・日 9~17時 休館日: 月・祝日  
花矢図書館: ☎ 46-1557



## 年末年始の休館について

公民館・出張所の年末年始の休館日は次のとおりとなりますので、よろしくお願いいたします。

また、12月28日(水)の『午後』と、1月4日(水)の『午前』は館内点検作業のため、公民館の使用はできませんので、よろしくお願いいたします。

**【休館日】12月29日(木)~1月3日(火)**

皆様のおかげで今年の公民館行事も無事に行うことが出来ました。本当にありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。(篠村)

